

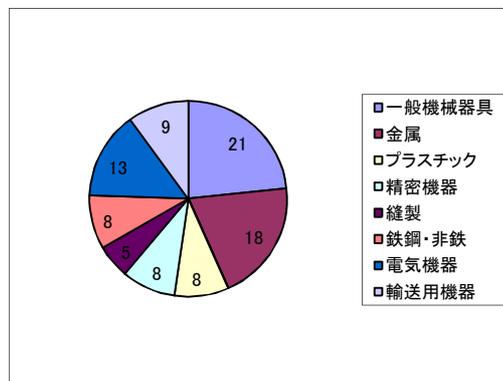
受注動向

-2012.2-

- 調査時点 平成24年1月調査(平成23年12月末時点)
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎(3、6、9、12月末時点)
- 回答企業 91社(回答率:60.7%)

<業種内訳>

一般機械器具	21	22.3%
金属	18	19.1%
プラスチック	8	8.5%
精密機器	8	8.5%
縫製	5	5.3%
鉄鋼・非鉄	8	8.5%
電気機器	13	13.8%
輸送用機器	9	9.6%



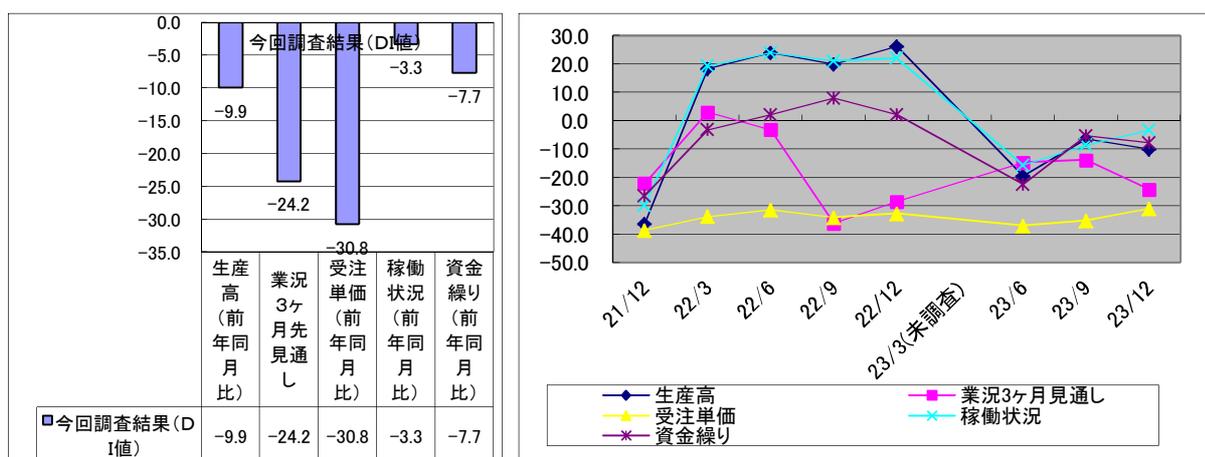
■ 全業種総合

前回調査時(9月)から、「稼働状況」は改善、「業況見通し」は悪化、「生産高」、「受注単価」、「資金繰り」は横ばいとなった。

「稼働状況」は▲3.3(前回▲8.5)で5.2ポイント改善となったが、「業況見通し」は▲24.2(前回▲13.8)で10.4ポイントの悪化となり、円高やタイの洪水、不安定な欧州債務問題の影響による先行き不透明感が強い。

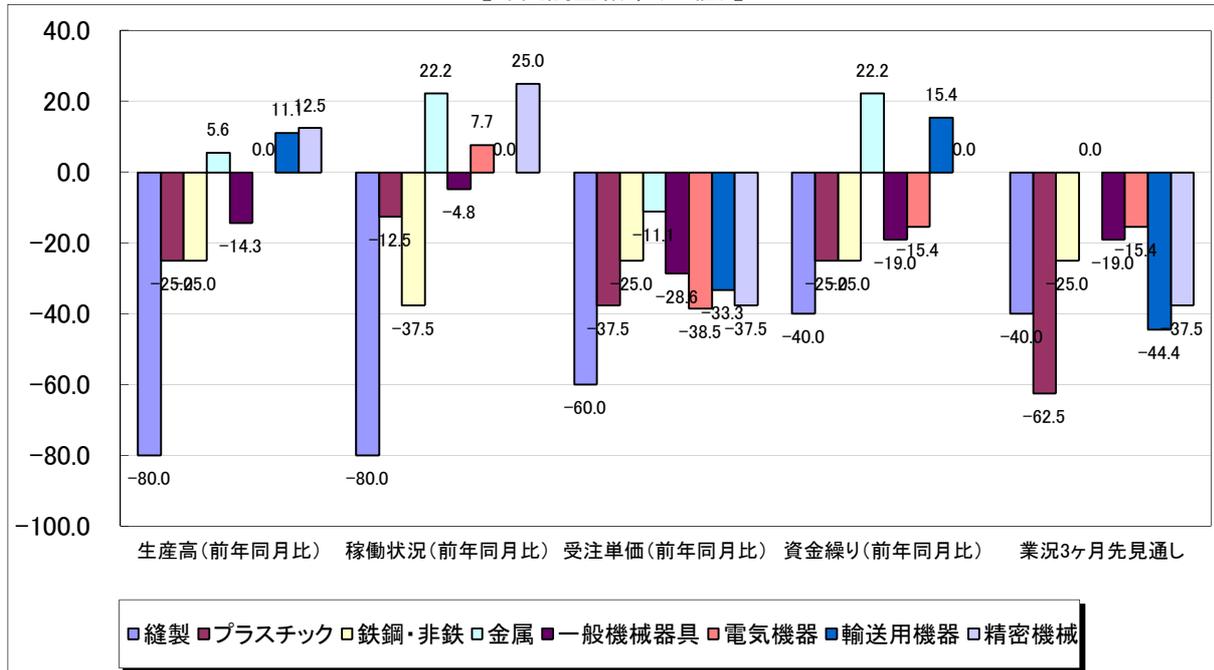
「生産高」、「受注単価」、「資金繰り」は前回から横ばいとなったが、いずれもマイナスのDI値を示し、厳しい受注環境を表す結果となった。

【全業種総合 DI値推移グラフ】



■ 業種別

【今回調査結果(DI値)】



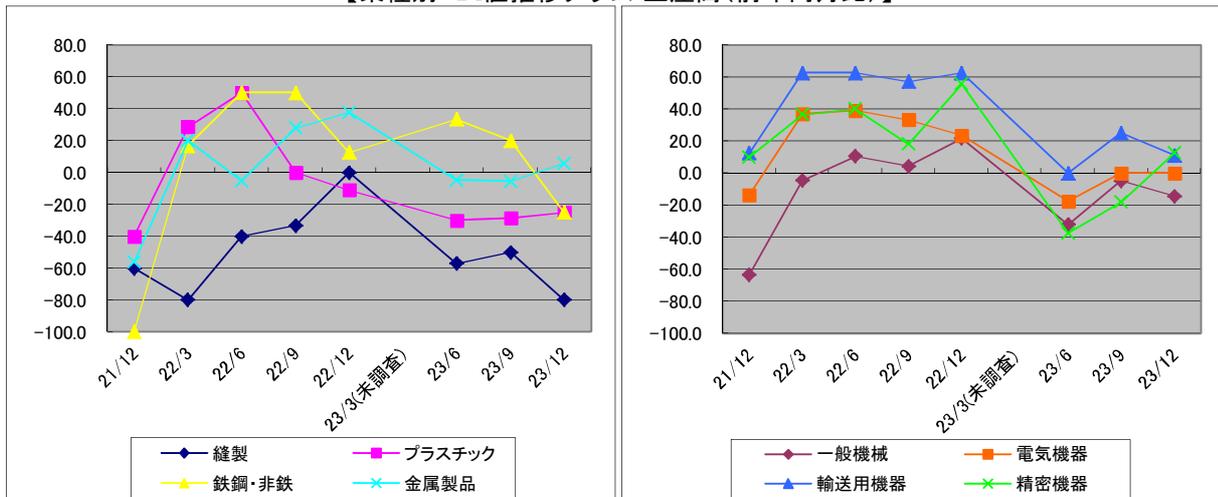
■ 生産高(前年同月との比較)

「精密機械」は大幅改善するも、「縫製」、「鉄鋼・非鉄」は大幅悪化となった。

「精密機械」が12.5(前回▲18.2)で30.7ポイントの大幅改善、「金属製品」も5.6(前回▲5.6)で11.2ポイント改善し、DI値もプラスに転じた。

一方、「縫製」が▲80.0(前回▲50.0)で30.0ポイント、「鉄鋼・非鉄」が▲25.0(前回20.0)で45.0ポイントの大幅悪化となり、「一般機械」も▲14.3(前回▲4.8)で9.5ポイントの悪化となった。円高に伴う海外生産への移行の影響が顕在化してきているとの意見があった。

【業種別 DI値推移グラフ/生産高(前年同月比)】



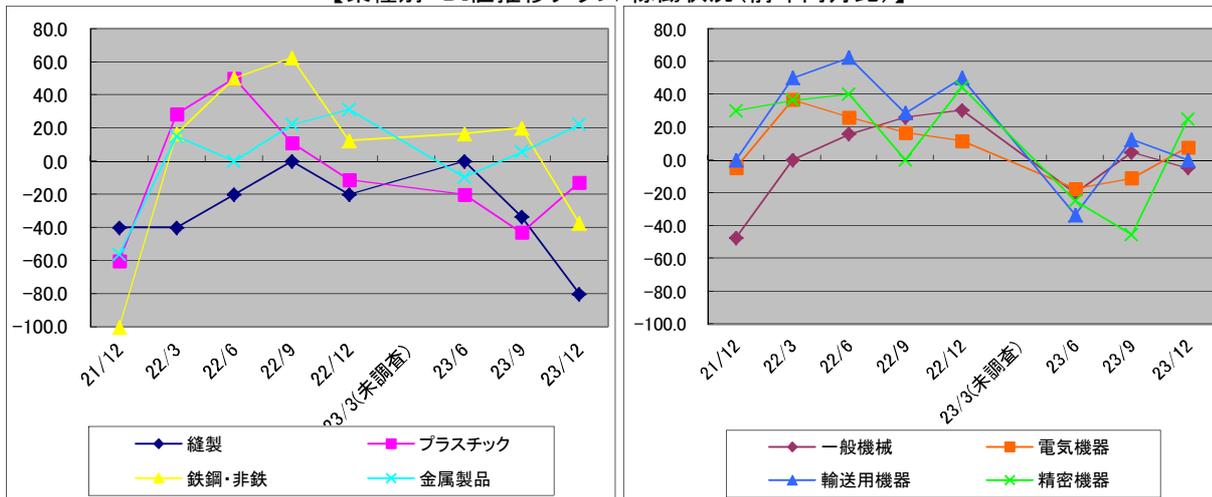
■ 稼働状況(前年同月との比較)

「精密機械」が大幅改善するも、「縫製」、「鉄鋼・非鉄」で大幅悪化となった。

「精密機械」は25.0(前回▲45.5)で70.5ポイントの大幅改善、「金属製品」、「電気機器」で改善し、プラスのDI値を示した。

一方で、「縫製」が▲80.0(前回▲33.3)で46.7ポイント、「鉄鋼・非鉄」が▲37.5(前回20.0)で▲57.5ポイントの大幅悪化、「一般機械」、「輸送用機械」でも悪化となった。

【業種別 DI値推移グラフ/稼働状況(前年同月比)】



■ 受注単価(前年同月との比較)

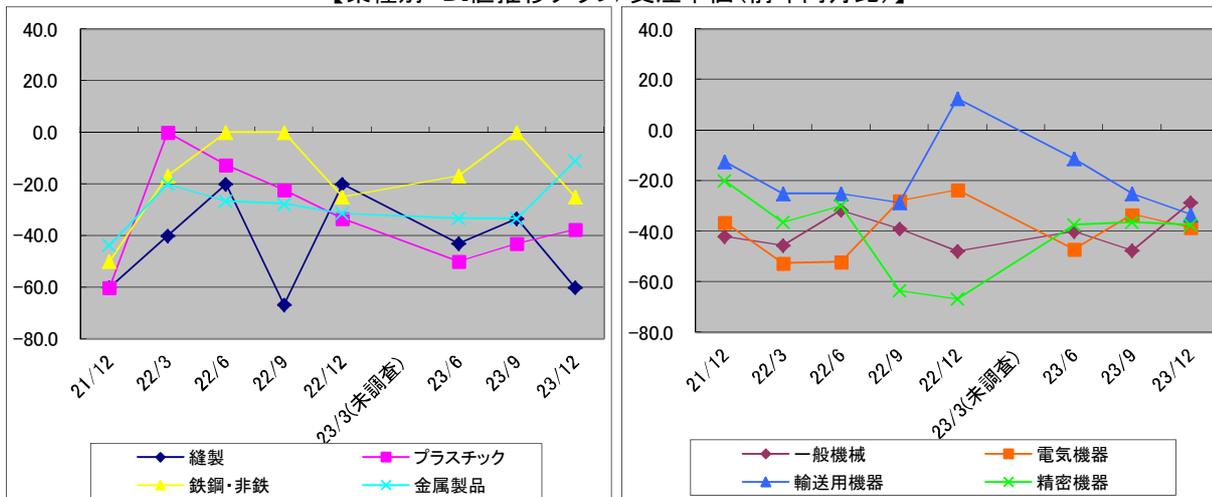
業種間で、改善、悪化の傾向が分かれるも、全ての業種でDI値がマイナスとなった。

「縫製」は▲60.0(前回▲33.3)で26.7ポイント、「鉄鋼・非鉄」は▲25.0(前回0.0)で25.0ポイントの悪化となった。

また、「金属製品」は▲11.1(前回▲33.3)で22.2ポイント、「一般機械」は▲28.6(前回▲47.6)で19.0ポイントの改善となったものの、依然マイナスのDI値で推移している。

円高により、発注元からのコスト削減要請も出ているとの意見もあった。

【業種別 DI値推移グラフ/受注単価(前年同月比)】



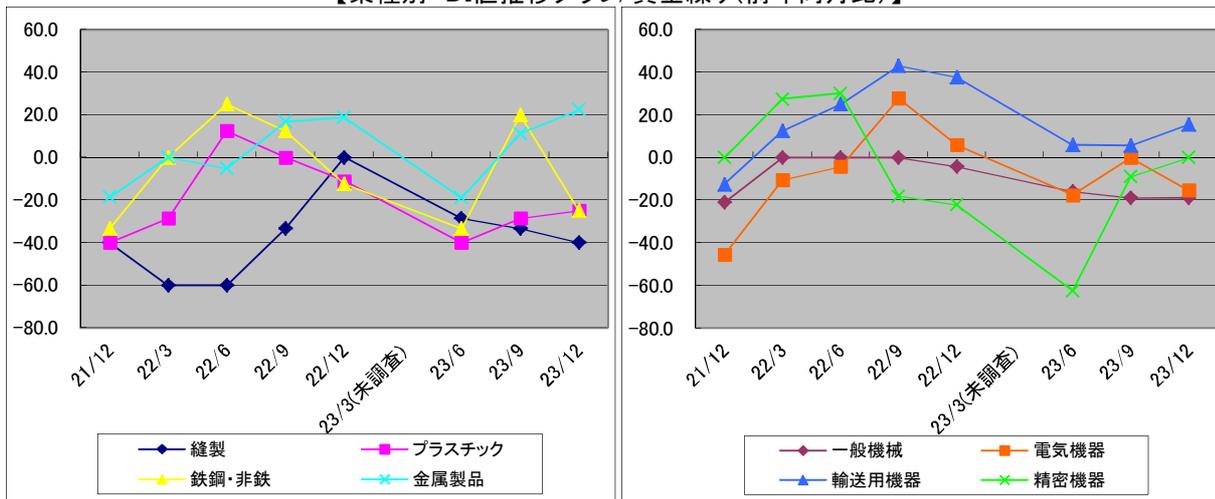
■ 資金繰り(前年同月との比較)

「鉄鋼・非鉄」が大幅悪化となった。

「鉄鋼・非鉄」は▲25.0(前回20.0)で45.0ポイントの大幅悪化、「電気機器」も▲15.4(前回0.0)で15.4ポイントの悪化となった。

一方で、「金属製品」が22.2(前回11.1)、「輸送用機器」が15.4(前回5.6)、「精密機器」が0.0(前回▲9.1)で、いずれも10ポイント前後の改善となった。

【業種別 DI値推移グラフ/資金繰り(前年同月比)】



■ 業況3ヶ月先見通し

「輸送用機械」で大幅に悪化となった。

「輸送用機械」で▲44.4(前回25.0)で69.4ポイントの大幅悪化となった。

また、「精密機器」で▲37.5(前回▲9.1)で28.4ポイント、「金属製品」で0.0(前回16.7)で16.7ポイントの悪化となった。

一方で、「縫製」▲40.0(前回▲50.0)、「プラスチック」▲62.5(前回▲71.4)、「一般機械」▲19.0(前回▲28.6)で、いずれも10ポイント弱の改善となったが、いずれもマイナスのDI値を示し、先行きは厳しい見通しである。

【業種別 DI値推移グラフ/3ヶ月先の業況見通し】

